

## 平成 21 年度事業報告（概要）

当事業団は、昭和 62 年の法人設立以来、横浜市総合リハビリテーションセンター（以下「リハセンター」という。）、戸塚地域療育センター（以下「戸塚センター」という。）、北部地域療育センター（以下「北部センター」という。）、西部地域療育センター（以下「西部センター」という。）、障害者スポーツ文化センター横浜ラポール（以下「ラポール」という。）の運営を専門性と総合性を発揮しながら進め、医療をはじめ社会的、心理的、教育的及び職業的分野に至るまでのリハビリテーション並びに障害者のスポーツ及び文化活動に関する横浜市における中心的役割を担ってきました。

平成 21 年度における新たな取組として、事業団各部門における施設運営の強化、迅速な意思決定及び利用者満足度の向上を図ることを目的とした機構改革を行うとともに、平成 22 年度から 5 年間の事業団全体の「経営目標」、各センターの「中期目標・中期運営方針」を策定して、職員が一丸となって取り組む目標と方針を改めて明確にしました。

各施設の取組として、リハセンターでは、学校支援事業の拡充や学齢障害児への支援体制の強化を図るとともに、平成 22 年度における横浜市高次脳機能障害支援センター事業の円滑な導入・本格実施に向けて高次脳機能障害への取組の充実に努めるなど、小児期から成人期に至るまでの一貫したサービスの提供をより充実させる体制の整備を図りました。

また、地域療育センターでは、平成 21 年度から平成 25 年度までの 5 年間にわたる指定管理者として引き続き選定されたことを受け、改めてその初年度として新たなスタートをきるとともに、北部センター分室において、平成 22 年度に開始する児童デイサービス事業へ円滑に移行することを目的に、就学前の知的に遅れのない発達障害児を対象に、週 1 回の集団療育と保護者への支援を行うなど、サービスの体系化やプログラムの開発を行いました。

さらに、ラポールでは、開港 150 周年記念に関連した事業として、横浜市と協働で様々な行事・イベントを実施するとともに、引き続き利用者満足度調査を実施して利用者サービスの向上に努めました。

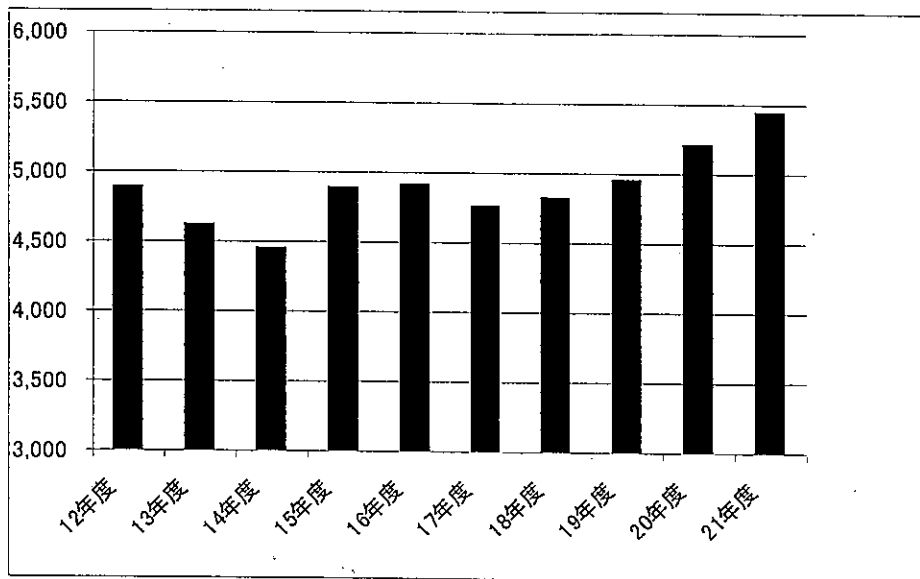
その他、平成 19 年度から平成 22 年度までの 4 年間にかけて、横浜市との間で「協約」として 5 つの重要な経営目標（協約事項）を締結しており、その目標達成に向けて取り組んできました。

●平成 21 年度の各施設の利用者数

〈新規利用者〉

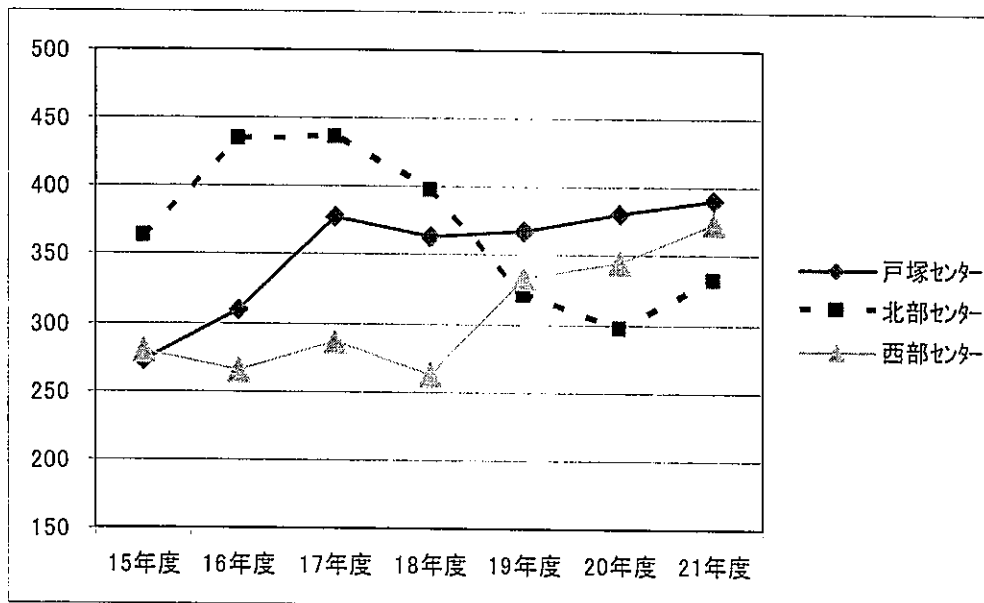
・リハセンターの新規総合相談来所者数 . . . 5,450 人(前年度 5,216 人)

〈リハセンター新規相談来所者数の推移〉



・3か所の地域療育センターの新規利用児数 . . . 1,096 人(前年度 1,022 人)

〈地域療育センター別 新規利用児数の推移〉



合計 6,546 人(前年度 6,238 人)

〈診療所受診者〉

・リハセンターの診療所受診者数 . . . 延べ 34,767 人(前年度 33,668 人)

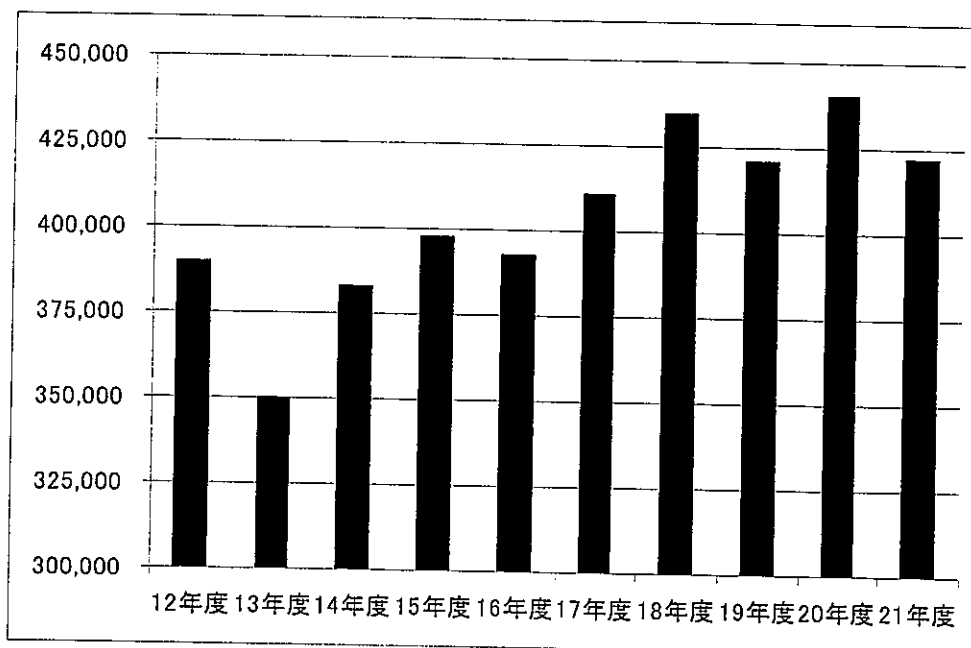
・3か所の地域療育センターの診療所受診者数・延べ 31,490 人(前年度 32,367 人)

合計 延べ 66,257 人(前年度 66,035 人)

〈施設利用者〉

- ・ 地域療育センターを含む通園・障害者支援・就労支援施設の利用者数  
・・・ 合計 616 人(前年度 583 人)
- ・ ラポールの施設利用者数  
・・・ 延べ 422,166 人(前年度 440,599 人)

〈ラポール年間利用者数の推移〉



## 第1 法人業務

事業団全体に関わる総括的業務として、事業計画・事業報告の策定のほか、予算・決算の審議や規程の改正等をお諮りする理事会、評議員会を開催し、法人の意思決定を行いました。また、事業団職員全体にかかる研修会の実施についても取り組みました。

### 1 理事会、評議員会の開催実績

	内 容	開催年月
理事会	3 回開催 計 14 議案承認	H21 年 5 月、H21 年 11 月、 H22 年 3 月
評議員会	3 回開催 計 10 議案承認	H21 年 5 月、H21 年 11 月、 H22 年 3 月

## 2 法人全体での研修会実施実績

	法人全体での研修会の実施	備考
研修	12件	前年度 15件

## 3 苦情解決制度に基づく対応

	申出件数	備考
苦情対応	1件 (前年度 0件)	西部センターにおいて、補装具製作業者が苦情申出者との間で約束した納期を繰り返し遅延し、改善されなかったことへの苦情。(解決済み)

※苦情解決制度によらない苦情、要望等：8件

(この8件は、一般職員による対応では解決に至らず、その調整や解決に施設長や管理職による調整、介入を要した苦情、要望等の件数です。この他、ラポールにおけるご意見箱への投書件数は、年間で85件でした。)

## 4 協約の平成 21 年度進捗状況

協約とは、平成 19 年度から平成 22 年度までの 4 年間にわたって当事業団に託された公益的使命として、横浜市と当事業団との間で共有化した重要経営目標とされるものです。

各協約事項の進捗状況は、次のとおりです。

### 【協約事項 1】

在宅リハビリテーション訪問実績を延べ 5,000 人以上 (22 年度) とします。

<21 年度目標値：4,600 人>

<21 年度実績>

在宅リハビリテーション訪問実績は 5,336 人で、目標値を上回っています。

### 【協約事項 2】

横浜市における障害児者のスポーツ・文化活動の中核機能を発揮し、ラポールの利用者数 (障害者) を 280,000 人以上、地域における事業実施回数を 230 回以上とします。(いずれも 22 年度)

<21 年度目標値：利用者数 277,500 人、地域における事業実施回数 220 回>

<21 年度実績>

#### ① 障害者の利用者数

障害者の利用者数は 285,832 人で、目標値を上回っています。

#### ② 地域における事業実施回数

地域における事業実施回数は 258 回で、目標値を上回っています。

### 【協約事項 3】

サービス向上に向けて満足度調査を小児部門 4 施設で統一して毎年実施し、10 点満点中 8 点以上（22 年度）の評価を獲得します。

<21 年度指標：調査の実施及び改善、10 点満点中 7.5 点以上の評価の獲得>

<21 年度実績>

前年度に引き続き、小児部門 4 施設合同で統一した調査項目により満足度調査を実施しました。その結果、4 施設ともに総合評価（平均値）においては 10 点満点換算で 7.5 点以上の評価を得ることができました。今後も改善すべき課題について分析し、より満足度を高められるよう一丸となって取り組んでいきます。

- ① 調査対象：ア 診療所利用児の保護者  
イ 通園施設利用児の保護者  
ウ 関係機関（担当エリアの幼稚園・保育所等）

- ② 総合満足度：部門毎の総合的な満足度（5 段階）を 10 段階換算した平均値

センター名	診療	通園	関係機関	総合満足度(前年度)
リハセンター（小児）	8.3	8.8	7.6	8.2 (8.0)
戸塚センター	8.0	8.2	7.8	8.0 (7.8)
北部センター	7.9	8.7	7.1	7.9 (7.7)
西部センター	8.0	8.6	7.6	8.0 (8.1)

### 【協約事項 4】

一般管理費を 3%以上削減するとともに、リハセンター診療報酬収入を 10,000 千円以上拡充します。（いずれも 22 年度）

<21 年度目標値：一般管理費 1,026,459 千円、診療報酬 191,288 千円>

<21 年度実績>

- ① 一般管理費の削減

一般管理費は 1,014,816 千円（21 年度決算）で、目標を達成しています。

- ② リハセンター診療報酬収入の拡充

診療報酬収入は 199,961 千円（21 年度決算）で、目標を達成しています。

### 【協約事項 5】

平成 22 年度中に職務や成果に基づいた独自の人事給与制度を、全職員を対象として導入します。

<21 年度指標：導入のシステム試行>

<21 年度実績>

人事考課制度の導入に向け、前年度に引き続き人事給与制度検討委員会等で評価制度の検討・設計を行いました。その結果をふまえ、一般職員の人事考課を試行的に実施しました。また、給与制度及び退職金制度についても検討・設計に取り組み、管理職を対象とした人事給与制度説明会を実施しました。

## 第2 横浜市総合リハビリテーションセンター運営事業

当センターは、昭和62年10月に開所以来、既に20年以上にわたって、発達障害に対しては「生まれてから成人に至る」まで、中途障害に対しては「発症から地域生活に至る」連続したリハビリテーションサービスのシステム構築を図るべく、各種事業に取り組んでまいりました。

今年度は、診療所業務において、前年度開始した思春期（概ね中学校期以降18歳未満）の発達障害のある方又はその疑いがある方を対象とする診療及び相談のニーズに対応し、学齢障害児に対する支援の拡充に努めました。

また、高次脳機能障害外来を開設して診断・評価を行うほか、リハセンター機能を横断的に活用した支援プログラムの充実、関係機関への研修や技術支援に取り組み、平成22年度に新たに開設されることとなった横浜市における高次脳機能障害支援センターの設置につなげることができました。

### 【社会福祉事業】

#### 1 児童通園施設（就学前の児童を対象）

##### (1) 肢体不自由児通園施設（定員40人）・知的障害児通園施設（定員30人）

肢体不自由児通園施設では、運動発達に障害がある児童を対象に、親子通園を中心とし、運動障害に対する個別及び集団療育を実施しました。あわせて療育内容や社会性を高めていけるように、プログラム内容の充実を図りました。

知的障害児通園施設では、精神発達に障害がある児童を対象に、親子通園と単独通園を組み合わせながら、集団、個別のプログラムを実施しました。

また、地域の幼稚園・保育所に通いながら当通園施設を利用する児童に対しては、関係する園との連携を図りました。

（実績：肢体不自由児通園施設）

※（ ）内は前年度

継続児	17人（15人）	新規児	8人（9人）	合計	25人（24人）
各月初日平均在籍児数		23.9人（24.0人）			

（実績：知的障害児通園施設）

※（ ）内は前年度

継続児	32人（16人）	新規児	19人（36人）	合計	51人（52人）
各月初日平均在籍児数		50.7人（51.6人）			

(2) 難聴幼児通園施設 (定員 30 人)

聴覚障害、言語障害がある児童を対象に、親子通園の形態により、個別療育及び集団療育を組み合わせた療育を行いました。今年度も、保護者支援と教材・プログラムの開発などを進め、療育内容の充実を図りました。また、早期発見・早期療育を図るため、幼稚園・保育所等関係機関へ各種リーフレットを配布しました。

(実績)

※ ( ) 内は前年度

継続児	37 人 (24 人)	新規児	61 人 (51 人)	合 計	98 人 (75 人)
各月初日平均在籍児数	68.4 人 (55.7 人)				

2 成人施設

(1) 障害者支援施設 (定員 施設入所支援事業 30 人、自立訓練事業 36 人)

夜間や休日に入浴や排せつ及び食事介助等を行う施設入所支援事業と、自立した日常生活又は社会生活ができるように、一定期間、身体機能又は生活能力の向上のために必要な訓練を行う自立訓練事業について、サービスを提供しました。

(実績)

※ ( ) 内は前年度

継続者	18 人 (16 人)	新規者	41 人 (38 人)	合 計	59 人 (54 人)
各月初日平均在籍者数	19.9 人 (19.2 人)				

(2) 就労支援施設 (定員 就労移行支援事業 30 人)

一般企業等への就労を希望する人に対して、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のための訓練を行う就労移行支援事業について、サービスを提供しました。

(実績)

※ ( ) 内は前年度

継続者	19 人 (13 人)	新規者	37 人 (31 人)	合 計	56 人 (44 人)
各月初日平均在籍者数	21.3 人 (18.8 人)				

3 その他

(1) 補装具製作施設

義肢装具、車いす、座位保持装置を中心とするニーズに応えるため、製作、修理等補装具利用者への継続的な援助、市内補装具製作者への技術指導、新たな研究開発を行いました。また、横浜市障害者更生相談所等と連携し、義肢装具クリニック、車いす・シーティングクリニックを実施しました。

(実績)

車いすクリニック来所者数	966 人 (前年度 878 人)
補装具製作指導	2,628 件 (前年度 2,436 件)

(2) 介助犬・聴導犬訓練事業

介助犬・聴導犬の利用相談を実施したほか、身体障害者補助犬法に基づく合同訓練の一部実施、認定審査を行いました。

(実績)

相 談	5 件 (前年度 4 件)
合同訓練	1 件 (前年度 1 件)
認定審査・認定	4 件 (前年度 3 件)

(3) 障害者・高齢者住環境整備事業

利用者の身体状況及び介護状況等個別ニーズに合わせた生活環境づくりへの専門的な支援を実施しました。適切な住環境を整備し、障害者・高齢者の自立支援、介護者の負担の軽減を図りました。

(実績：この実績は、福祉機器支援センター対応件数を含む。)

住宅改造	136 件 (前年度 139 件)
自立支援機器	19 件 (前年度 33 件)
住宅改造と自立支援機器	31 件 (前年度 42 件)
合 計	186 件 (前年度 214 件)

(4) 介護実習・普及センター運営事業

高齢障害者等要介護者に対する支援や理解の促進、福祉機器の普及等を目的に、専門的知識や技術を活かした事業を行いました。また、支援関係機関や各種サービス提供事業者へのリハ技術や知識の供与を自主研修事業化し、介護支援者等への研修について協力を行いました。

(実績)

自主研修	13 企画・参加者 274 人 (前年度 11 企画・参加者 666 人)
講師派遣	65 講座・延べ 101 人 (前年度 72 講座・延べ 133 人)

(5) 福祉機器支援センター(中山・反町・泥亀)運営事業

市内 3 か所の福祉機器支援センターでは、福祉機器・住宅改造・介護に関する相談や情報提供、福祉機器の展示・試用評価、在宅リハビリテーション等の事業を実施することにより、障害者・高齢者に対する支援体制の拡充強化を図りました。

(実績)

福祉機器等に関する相談	10,529 件 (前年度 8,223 件)
在宅リハビリテーション評価訪問	835 人 (前年度 732 人)



【公益事業】

1 診療所

外来診療、検査、薬剤、理学療法や作業療法等の機能訓練、外来療育及び入院診療(19床)を行い、医学的リハビリテーションサービスを提供しました。今年度も、利用者の多様なニーズに応じるとともに、地域医療機関との連携や医療サービスの向上に努め、在宅生活への継続した支援を行いました。

また、前年度に引き続き、増加する発達障害に対応するため、概ね中学校期以降の思春期における発達障害のある方又はその疑いのある方を対象とした診療及び相談を行い、学齢障害児支援事業の拡充に取り組みました。

(実績)

※( )内は前年度

診療受診者(理学療法・作業療法・言語聴覚治療を含む)	34,767人(前年度33,668人)
外来集団療育	3グループ・30クラス・181人 (前年度3グループ・29クラス・157人)
学齢障害児(学齢後期)支援 ※前年度は第4四半期の3か月間のみ実施し、今年度から通年で実施となりました。	①本人への相談対応：71人 (前年度9人) ②保護者への相談対応：592人 (前年度126人) ③初診件数：94件 (前年度7件)

2 地域・在宅巡回事業

障害のある市民が、住み慣れた地域社会で安心して自立した生活を送れるよう、リハビリテーションに関する相談に応じるとともに、関係機関との連携のもと、専門職員を地域生活の場に派遣して、利用者に適切なサービスを提供しました。

また、発達障害児等への対応に関して、小学校の教職員を対象に、学校訪問という形態によるコンサルテーションや研修の実施を内容とした学校支援事業については事業開始3年目を迎え、臨床心理士が訪問するなどサービスの質の向上及び訪問回数の増加に努めました。

(実績)

総合相談窓口来所者数	5,450人(前年度5,216人)
評価訪問	1,444人(前年度1,195人)
療育相談	135人(前年度131人)
関係機関技術援助	95か所・183回(前年度81か所・133回)
学校支援(訪問)	47か所・105回(前年度41か所・74回)

### 3 職能評価開発事業

就労を目指す障害者を支援するため、職業相談、職能評価、職能訓練コースでの能力開発等を実施しました。特に職能訓練コースは、既に平成 20 年 7 月から障害者自立支援法に規定する就労移行支援事業に準ずる支援を提供する施設に変わり、利用料も障害者自立支援法に準じた取り扱いとなりました。

(実績)

職業相談・職業評価	254 人 (前年度 241 人)
職能訓練コース	19 人 (前年度 24 人)

### 4 企画開発研究事業

リハビリテーションに関する研究開発等の実施をとおして、新しい福祉機器や技術、情報を引き続き提供しました。研究開発については、これまでの研究内容を継続するとともに、新たな福祉機器の開発、実用化及び製品化を図りました。また、民間企業や大学等との共同開発、機器の臨床評価にも力を入れ、あわせて自主財源の確保にも貢献できるよう努めました。臨床工学サービスについては、実生活における様々なニーズに合わせた質の高いサービスをきめ細かく行いました。

また、「福祉を支える人とテクノロジー」をテーマに、福祉の分野を中心とした最新技術の紹介や自立と社会参加(リハビリテーション)の将来性・可能性を広く紹介することを目的とした「ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド 2009 (ヨッテク)」を開催(平成 21 年 7 月 24 日～25 日)し、13,046 人の来場者がありました。

(実績)

福祉機器の臨床評価	9 件 (前年度 5 件)
民間企業との共同研究	4 件 (前年度 4 件)
研究テーマ	8 テーマ (前年度 9 テーマ)
ヨッテク来場者 (2 日間)	13,046 人 (前年度 15,349 人/3 日間)

### 第3 地域療育センター一運営事業

心身に障害のある児童及びその疑いのある児童の地域における療育体制の充実を図るため、市内7か所の地域療育センターのうち、当事業団は3か所を指定管理者として運営しました。

指定管理者の選定については、平成20年度における選定委員会により従来の指定管理者の実績等の評価・選定が行われ、その後、市会での議決を経て、平成21年度から平成25年度までの5年間、当事業団が3か所の地域療育センターを引き続き指定管理者として運営することとなりました。

今年度は、特に集団療育候補児の増加が著しい戸塚センターにおいて、前年度に開所した分室「うみ」が通年での運営となったほか、北部センターにおいて、平成22年度から開始する児童デイサービス事業の円滑な導入を目的に、その準備事業として、就学前の知的に遅れのない発達障害の児童を対象に、週1回の集団療育と保護者への支援を行い、サービスの体系化やプログラムの開発を行いました。

また、学齢障害児については、引き続き就学以降の生活支援を含めた相談、専門医療などの取組みを行い、成人期を迎えた時に円滑に自立生活に移行できるよう支援するとともに、小学校の教職員に対して研修やコンサルテーションを実施する学校支援事業の拡充に努めました。

さらに、平成18年度からの3年間を期間としてモデル実施してきた地域ニーズ対応事業は、今年度においても引き続き実施することが横浜市から認められ、それぞれの地域の特性や利用者ニーズに即し、幼稚園・保育所等との連携や技術援助の充実、卒園児への余暇活動支援等、各センターが独自の取組みを検討し、実施しました。

#### 1 肢体不自由児通園施設（定員40名）・知的障害児通園施設（定員50名）

肢体不自由児通園施設では、運動発達に障害がある児童を対象に、治療・機能訓練と生活指導・集団活動を統合した療育を実施しました。原則として親子通園の形態で保護者が療育場面に参加し、療育の基本的な考え方、療育の技術、児童の特徴を知ることができるよう支援しました。また、必要に応じて単独通園の形態も取り入れ、小集団指導による療育効果が発揮されるよう支援しました。

知的障害児通園施設では、精神発達に障害がある児童を対象に、集団及び個別での療育を実施しました。主として親子通園の形態をとりながら、必要に応じて単独通園の形態も取り入れて支援するとともに、いずれの施設でも、地域の幼稚園・保育所に通いながら各施設の通園を利用する児童に対しては、関係する機関との連携強化を図りました。

(実績：肢体不自由児通園施設)

※( )内は前年度

療育センター名	継続児	新規児	合計	各月初日平均 在籍児数
戸塚センター	23人(19人)	10人(10人)	33人(29人)	33.0人(29.0人)
北部センター	20人(23人)	7人(18人)	27人(41人)	24.5人(38.3人)
西部センター	14人(18人)	13人(7人)	27人(25人)	27.0人(24.6人)

(実績：知的障害児通園施設)

※( )内は前年度

療育センター名	継続児	新規児	合計	各月初日平均 在籍児数
戸塚センター	40人(39人)	36人(45人)	76人(84人)	76.0人(80.8人)
北部センター	48人(29人)	34人(37人)	82人(66人)	80.4人(64.3人)
西部センター	42人(43人)	40人(46人)	82人(89人)	81.2人(86.3人)

## 2 診療所

障害のある児童又はその疑いのある児童を対象に、医学的な診断・評価、各種検査、機能訓練を行うとともに、センターの各部門が必要とする医療に関する専門的なサービスを提供し、あわせてチームアプローチの充実を図りました。また、必要に応じて、地域の医療機関との連携を図りました。

学齢障害児については、成人期を迎えたときに円滑に自立生活に移行できるように、就学以降の生活支援を含めた相談、専門医療等の支援を行いました。

(実績)

新患児数	1,096人(前年度1,022人)
外来グループ療育	322人(前年度367人)

## 3 障害児地域巡回事業

地域療育システムづくりを進めるため、区福祉保健センター、児童相談所等との密接な連携を図りながら、幼稚園・保育所等に対しては、主に巡回訪問により必要とする専門サービスを提供するとともに、療育セミナー等の実施等により、地域における療育機能の充実を図りました。

また、事業実施3年目となる学校支援事業についても、小学校の教職員に対して研修やコンサルテーションを行い、訪問回数を増やすなど事業の充実に努めました。

(実績)

療育相談対応	591人(前年度434人)
関係機関技術援助	352か所・504回(前年度322か所・473回)

(学校支援事業実績)

療育センター名	担当区域 (小学校)	支援回数 (前年度)
戸塚センター	主に戸塚・栄・泉	135回 (110回)
北部センター	主に緑・都筑	95回 (73回)
西部センター	主に保土ヶ谷・旭・瀬谷	118回 (102回)

※支援回数には、担当区域外の小学校への訪問を含みます。

4 戸塚地域療育センター分室 (定員概ね48名 (日々12名))

戸塚センター担当エリアにおける集団療育候補児の増加に対応するため、平成20年10月に戸塚区上柏尾町に新たに開所した分室「うみ」は、今年度、1年をとおしての運営を行いました。利用児が並行利用する幼稚園・保育所と連携しながら、週1回の集団療育の実施と保護者に対する支援を行いました。

(実績)

※ ( ) 内は前年度

継続者	14人 (0人)	新規者	34人 (35人)	合計	48人 (35人)
各月初日平均在籍者数	48.0人 (29.2人)				

5 北部地域療育センター児童デイサービス準備事業

平成22年度に開始する児童デイサービス事業へ円滑に移行することを目的に、サービスの体系化やプログラムの開発を行うとともに、関係機関との連携強化を図りました。主に就学前の知的に遅れのない発達障害児を対象に、週1回の集団療育と保護者への支援を行いました。

なお、今年度の利用実児童数31人中12人の児童が、平成22年度に「ぴーす中川」(平成22年度開所：児童デイサービス事業所)に移行しました。

(実績)

利用実児童数	31人
--------	-----

6 地域ニーズ対応事業

地域ニーズ対応事業は、それぞれの地域の特性や利用者ニーズに即し、平成18年度からの3年間を期間としてモデル的に実施してきましたが、今年度においても引き続き実施することが横浜市から認められ、各センターが独自の取組みを検討し、実施したものです。

(実績)

療育センター名	主な内容
戸塚センター	①集団療育終了児への支援：個別フォローのほかに、懇談会や保護者教室等の保護者への支援サービスの実施 ②並行通園児への支援：並行して通う幼稚園等への適切な時期での訪問や来所による支援の充実

	③低年齢肢体不自由児への支援：専門職からの情報提供、保護者間の交流づくり、遊び場の提供といったプログラムの定期的な実施による保護者の育児不安の軽減
北部センター	児童デイサービス準備事業（再掲） 就学前の知的の遅れのない発達障害児への週1回の集団療育や保護者支援等をはじめ、平成22年度開始予定の児童デイサービス事業への円滑な移行を目的としたサービスの体系化やプログラムの開発
西部センター	①センター利用児の並行通園している幼稚園等の環境評価 ②センター利用児の学校移行支援 ③肢体不自由児通園施設児の交流先開拓事業

## 7 満足度調査の実施（再掲）

当事業団小児部門4施設は、横浜市との協約に基づき、提供するサービスの向上を目的とした利用者満足度調査を実施しました。

横浜市との協約においては、小児部門4施設で統一して毎年実施し、平成22年度の時点で10点満点中8点以上の評価を獲得することが目標とされています。

今年度も統一した調査項目により満足度調査を実施した結果、今年度の指標である10点満点で7.5点以上については4施設ともに総合評価（平均値）で獲得しました。評価の低かった項目については、今後、改善に向けた取組みをセンター一丸となって行っていきます。

- ① 調査対象：ア 診療所利用児の保護者  
イ 通園施設利用児の保護者  
ウ 関係機関（担当エリアの幼稚園・保育所等）
- ② 総合満足度：部門毎の総合的な満足度（5段階）を10段階換算した平均値

センター名	診療	通園	関係機関	総合満足度（前年度）
リハセンター（小児）	8.3	8.8	7.6	8.2（8.0）
戸塚センター	8.0	8.2	7.8	8.0（7.8）
北部センター	7.9	8.7	7.1	7.9（7.7）
西部センター	8.0	8.6	7.4	8.0（8.1）

## 第4 障害者スポーツ文化センター横浜ラポール運営事業

横浜市における障害者のスポーツ・文化・レクリエーション活動の中核拠点施設として、関係機関・団体等と密接に連携し、利用者本位の施設運営、事業運営に努めました。

各種スポーツ施設、ホール（ラポールシアター）、会議室等を貸し出し、障害者等のグループ（団体）又は個人の自主的なスポーツ・文化・レクリエーション活動を支援しました。

今年度の開館日数は345日（前年度345日）、施設利用者数は延べ422,166人（前年度延べ440,599人）でした。

なお、横浜市との協約事項である障害者の利用者数は、285,832人（目標値277,500人）、地域支援事業の実施回数は258回（目標値220回）で、それぞれ目標値を達成しました。また、利用者満足度調査を実施し、利用者へのサービス提供の向上を図りました。

（実績）

開館日数	345日（前年度345日）	施設利用者数	422,166人（前年度440,599人）
------	---------------	--------	-----------------------

### 1 スポーツ振興事業

障害者の健康増進と社会参加の促進を図るため、計画的かつ系統的な指導プログラムを充実させました。生涯にわたってスポーツを継続できることを目的にリハビリテーション・スポーツ教室や相談等を実施し、基礎体力づくりと日々のスポーツ活動の導入を支援しました。また、障害者のスポーツ環境の向上を目的に地域での支援事業を実施しました。

（実績）

リハビリテーション・スポーツ教室、相談等	参加者 4,252人（前年度 4,403人）
スポーツ・レクリエーション教室	参加者 9,158人（前年度 8,489人）
障害者スポーツ指導員・ボラ研修等	参加者 3,759人（前年度 4,818人）
地域での支援事業	参加者 4,968人（前年度 5,538人）

### 2 文化振興事業

障害者の文化活動の発表の場である「芸術市場」などを実施することにより、多様な文化的体験や能力開発ができる場を提供しました。また、障害者に生活や文化に関する情報を発信したほか、文化活動を支援するための人材の確保・育成等に取り組みました。

(実績)

講座・行事	49件・参加者 9,797人 (前年度 43件・参加者 10,293人)
-------	---

※ラポールファクトリーの観覧者数を除く

### 3 聴覚障害者情報提供事業

聴覚障害者の社会参加を推進するため、手話・筆記通訳者の派遣、生活相談、社会参加情報の提供等を行いました。また、聴覚障害者団体等の活動を支援するため、視聴覚機器の貸出等を行いました。

(実績)

手話・筆記通訳派遣	延べ 7,857人 (前年度 7,552人)
聴覚障害者相談	延べ 937回 (前年度 849回)

### 4 広報事業

広報紙「ラポラボ」の毎月発行等をとおして、市民の障害者に対する理解を深めるとともに、障害者の社会参加の促進を図りました。今年度は、よりわかりやすい情報提供に努め、定期的にホームページの更新を行いました。

(実績)

「ラポラボ」配布	約 500か所 (前年度約 500か所)
----------	----------------------



## 障害者スポーツ文化センター横浜ラポール 平成 21 年度事業報告書「詳細版」

市内唯一である障害者のスポーツ・文化・レクリエーション振興の中核拠点施設として、地域や利用者の様々な状況に即した事業を行いました。運営の基本理念を「リハビリテーションの向上」、「豊かな人生への支援」、「共生社会実現への取り組み」と定め、リハビリテーション・スポーツを核とした各種プログラムの展開、多様な地域資源（横浜市体育協会、各種競技団体等）との連携に基づいた市域での事業を推進しました。

なお、21 年度は開港 150 周年記念障害者スポーツ・文化事業として、障害者のヨット活動を始め様々なスポーツ及び文化イベント等へ積極的に協力しました。

21 年度の開館日数は 345 日（前年度 345 日）であり、施設利用者数は延べ 422,166 人（前年度延べ 440,599 人）でした。

横浜市との協約事項における 21 年度目標値については、障害者等利用者数は 277,500 人のところ 285,832 人と目標値を達成し、また地域支援事業実施回数は 220 回のところ 258 回と目標値を大きく超えました。これは、前年度と同様に開港 150 周年事業の関係で地域における事業が増加した結果です。

また、利用者満足度調査を実施して利用者へのサービス向上につなげると共に、施設利用時間の拡大に関するアンケート調査も行いました。

### 1 施設運営事業

障害者等のグループ（団体）または個人による自主的なスポーツ・文化・レクリエーション活動を支援するため、各種のスポーツ・文化施設の貸出を行いました。

21 年度も引き続き、各スポーツ施設において効率的で安全な運動の実施や、教室等の案内をその場で行うワンポイントアドバイスの充実に努めました。これにより、利用者のニーズを的確に捉えつつ、適切なプログラムへと速やかに導入することが可能となっています。

また、利用促進策として、市内学校へのダイレクトメールの発送を試みました。

広報については、広報紙やインターネット等を通して、ラポールの事業を紹介し、障害者の社会参加の促進を図りました。

### 2 スポーツ振興事業

#### (1) 運営方針

初心者に重点を置く「スポーツ人口の拡大」、スポーツを通じた障害者の「自立支援」及びラポールで培ったノウハウの「地域還元」に基づくスポーツ環境の向上をコンセプトに事業を実施しました。

具体的には、

- ア リハビリテーション・スポーツを核とした個別指導や各種教室の開催
  - イ 障害者のスポーツを支える指導者やボランティアなどの人材育成の強化
  - ウ 各種地域資源との連携強化によるスポーツ環境の拡大
- 等を中心に実施しました。

特に 21 年度は、高次脳機能障害等により施設利用に様々な困難のある対象者への

対応を強化することを目的に、月1回の定例情報交換会議を開催しました。この会議ではリハセンターのケースワーカーの協力を得ることで、職員の高次脳機能障害に対する理解を深めると共に、対象者へのきめ細かいサービスにつなげました。

## (2) 事業内容

### ア スポーツ初期相談

新たにラポールを利用する人に対し、各種教室や施設の紹介等の相談を行いました。また、必要に応じた主治医や担当セラピストへの照会などを通して、利用者が適切なプログラムへ速やかに参加できるよう、第一次のスクリーニング機能を果たしました。

### イ リハビリテーション・スポーツ

医学的リハビリテーションと社会リハビリテーションの中間に位置するリハビリテーション・スポーツをラポールにおけるスポーツ指導の中核と位置づけ、様々な障害者への指導を行いました。

リハセンターとの連携により、重度の障害者に対するプログラムやスポーツ用器具等の開発を進め、対象者の拡大を図りました。

リハセンターや横浜市脳血管医療センターなどと連携しながら、体力測定を実施し、その成果を日常の指導場面に活かしました。数年来の課題となっているラポール利用者の定量的な QOL 評価については、新たな評価表（標準化されているものをラポール独自の視点で一部修正）を用いて行いました。これまでに使用してきた評価表と比べると比較的適応が高かったため、22年度も同一の評価表を用いた評価を行い、その結果を持ってラポール版の QOL 評価指標とすることを検討します。

日常的にスポーツ相談・健康相談・個別指導等を実施しました。リハビリテーション・スポーツ教室として、成人片麻痺者、肢体不自由児、知的障害児、高次脳機能障害者の各クラスを開催しました。

## <リハビリテーション・スポーツの実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
各種相談	スポーツ相談や健康相談等	607回	607人
リハ・スポーツ教室（成人）	成人片麻痺者を対象とする教室	30回	351人
リハ・スポーツ教室（学齢）	学齢発達障害児を対象とする教室	15回	63人
リハ・スポーツ教室（高次脳）	高次脳機能障害者を対象とする教室やフォローアップ	71回	1,597人
リハ・スポーツ教室（フォローアップ）	教室参加後にフォローの必要性が生じたケースへの対応	21回	167人
個別指導	障害に応じたマンツーマン指導	815回	815人
学齢障害児支援	学齢障害児のスポーツ体験 <sup>1)</sup>	10回	87人
体力診断（体力測定）	リハ・スポ教室（成人）の参加者を主な対象とする体力測定	2回	165人

体力診断（セミナー） 『ゆるリハ』	体力測定参加者を主な対象者にリラクゼーションの体験 <sup>2)</sup> を中心としたイベント（10月28日）	1回	400人
合計（前年度）		4,252人（4,403人）	

- 1) 体験したスポーツ種目は、知的障害児のフライングディスク、ダンス及び肢体不自由児の車いすバスケットボール
- 2) アロマ&ストレッチやマッサージ

#### ウ スポーツ・レクリエーション

障害者がスポーツ・レクリエーション活動に、“いつでも”“どこでも”自由に参加できるように、障害者にとって使いやすいスポーツ施設の運営を行いました。

また、身近な施設においてもスポーツ・レクリエーション活動ができるような環境づくりを推進しました。

スポーツ教室では、リハビリテーション・スポーツとの有機的な連携のもと、生涯スポーツ活動の定着に向けた指導を行いました。また、上級者向けのプログラムを実施し、全国障害者スポーツ大会の予選を兼ねるハマピック競技大会の充実を図りました。

障害者のスポーツの普及を進める上で、実践的な指導者等の人材育成研修を実施しました。

生涯スポーツ活動を今後開始していくグループに対し、自立促進に向けた支援を行いました。

#### <スポーツ・レクリエーション教室の実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
卓球教室（初心者）	卓球の初心者を対象とする教室	26回	189人
卓球教室（初級者）	卓球の初級者を対象とする教室	26回	217人
卓球教室（フォローアップ）	教室参加後にフォローの必要性が生じたケースへの対応	9回	66人
卓球教室（中級者） <sup>1)</sup>	卓球の中級者を対象とする教室	24回	573人
水泳教室（上級者） <sup>1)</sup>	水泳の上級者を対象とする教室	19回	264人
水泳教室（はじめてプール） <sup>2)</sup>	水泳の初心者を対象とする教室	19回	118人
水泳教室（らくらくクロール） <sup>2)</sup>	水泳の初級者で片麻痺以外の方を対象とする教室	40回	1,883人
水泳教室（選手クラス）	水泳の競技選手を対象とする教室	18回	347人
短期水泳教室	学齢の肢体障害児を主な対象として夏季に行った短期の水泳教室	5回	21人
フライデーナイト スイミングスクール	一般健常者も含め、金曜日の夜間に実施した水泳教室	20回	68人

ジュニアダンス教室	発達障害の学齢女子を対象とするダンス教室	27回	414人
横浜F・マリノス futuro	マリノスと協働で開催している知的障害者のサッカー教室	47回	1,498人
アウトドアスポーツ教室	ヨットの体験乗艇を行う教室	7回	105人
合 計 (前年度)		5,763人 (4,772人) <sup>3)</sup>	

1)前年度まで、卓球教室(中・上級者)として一本化していたものを、21年度は卓球教室(中級者)と卓球教室(上級者)に分けて、それぞれ実施しました。

2)前年度まで、水泳教室(初心者)として実施していたものを水泳教室(はじめてプール)に改め、また水泳教室(初級者)及び(中級者)をまとめて水泳教室(らくらくクロール)として実施しました。

3)スポーツ・レクリエーション教室の実績が前年度よりも約1,000人増加したのは、21年度新規実施した卓球教室(中級者)と各々の教室への参加者が少しずつ増加したためです。

#### <スポーツ・レクリエーションの時間の実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
グラウンドゴルフ広場	グラウンドゴルフを楽しむ時間	117回	1,455人
フライングディスクの時間	フライングディスクを楽しむ時間	11回	169人
ターゲットスポーツの時間	ビームライフやダーツ、吹き矢等のスポーツを楽しむ時間	18回	80人
オリジナルスポーツの時間	ラポールで独自に開発したビンゴボールやターゲットボッチャ等のスポーツを楽しむ時間	50回	949人
卓球の時間	卓球を楽しむ時間	23回	570人
ボッチャの時間	ボッチャを楽しむ時間	18回	172人
合 計 (前年度)		3,395人 (3,717人)	

#### エ スポーツ大会・交流イベント

障害者のスポーツの普及振興及び競技力向上を目的に「ハマピック」を行いました。「ハマピック」の結果に基づいて全国障害者スポーツ大会への派遣選手を選考し、10月に新潟県で行われた本大会へ選手を派遣しました。なお、代表となった選手には本大会までの間、強化練習を実施し、競技力の向上を図りました。

知的障害者のサッカーの普及を図るため、横浜F・マリノスとの共催事業としてサッカー教室を開催しました。

スポーツフェスタとして「水泳の日」「ボッチャの日」「ボウリングの日」を開催し、健常者を含めた各種目の愛好者間の交流を進めました。また、競技力の向上を目的に「オレンジリーグ(卓球)」「ボッチャリーグ」「フライングディスク記録会」を実施しました。さらに「ラポールの祭典」「障害者スポーツ体験」等の開催を通じ

て、市民が広く障害者のスポーツを理解できる機会の促進を図りました。

<第14回ハマピックの実績>

プログラム <sup>1)</sup>	内 容 <sup>2)</sup>	回数	参加者数
水泳	身体障害及び知的障害を対象とした水泳競技(4月26日)	1回	322人
卓球	身体障害及び知的障害を対象とした卓球競技(4月26日)	1回	45人
フライングディスク	身体障害及び知的障害を対象としたフライングディスク競技(4月29日)	1回	89人
陸上	身体障害及び知的障害を対象とした陸上競技(5月8日、三ツ沢公園陸上競技場)	1回	173人
サウンドテーブルテニス	視覚障害を対象としたサウンドテーブルテニス競技(4月19日)	1回	12人
アーチェリー	身体障害を対象としたアーチェリー競技(4月19日)	1回	4人
ボウリング	知的障害を対象としたボウリング競技(4月19日)	1回	65人
バスケットボール	知的障害を対象としたバスケットボール競技(7月5日及び8月2日)	2回	198人
ソフトボール	知的障害を対象としたソフトボール競技(11月8日、岸根公園野球場)	1回	30人
バレーボール	知的障害を対象としたバレーボール競技(11月29日)	1回	114人
サッカー	知的障害を対象としたサッカー競技(12月13日、しんよこフットボールパーク)	1回	169人
合 計 (前年度)		1,221人 (1,213人) <sup>3)</sup>	

1) プログラム欄のうち、『水泳』『卓球』『フライングディスク』『陸上』『サウンドテーブルテニス』『アーチェリー』『ボウリング』は個人競技、『バスケットボール』『ソフトボール』『バレーボール』『サッカー』は団体競技となります。

2) 内容欄で、特に記載の無いものはラポールのスポーツ施設における実施です。

3) 参加者数については、原則としてエントリー時の人数としました。

<スポーツ・フェスタの実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
水泳の日	どなたでも参加が可能な水泳の記録会 (7月5日)	1回	457人
ボウリングの日	障害のある方と介護者、家族を対象とした記録会 (9月6日及び1月31日)	2回	101人
ボッチャの日	どなたでも参加が可能なボッチャの競技会 (2月28日)	1回	151人
合 計 (前年度)			709人 (534人)

<各種リーグ戦や記録会の実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
卓球オレンジリーグ <sup>1)</sup>	卓球やサウンドテーブルテニスの競技力向上を目的としたリーグ戦	11回	431人
ボッチャリーグ	ボッチャの競技力向上を目的とした競技会	10回	272人
フライングディスク記録会	フライングディスクの競技力向上を目的とした記録会	10回	116人
ボウリング記録会	ボウリングの競技力向上を目的とした記録会	6回	158人
全国大会強化練習	横浜市代表選手を対象に競技力の向上を図る練習会	42回	304人
合 計 (前年度)			1,281人 (1,303人)

1) 卓球オレンジリーグには、インターリーグ、トップリーグ、サウンドテーブルテニスリーグを含みます。

<各種研修の実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
障害者スポーツ・ボランティア養成入門講座	原則15歳以上、横浜市に在住のボランティア活動希望者を対象とした研修会 (4月5日及び9月27日)	2回	32人
初級障害者スポーツ指導員養成講座	原則18歳以上、横浜市に在住のスポーツ・ボランティア養成入門講座受講者かスポーツ・レクリエーションの指導を行っている方を対象とした研修会 (1月16日、23日、24日)	3回	60人

フォローアップ研修会	横浜市に在住のスポーツ・ボランティア養成入門講座受講者か障害者スポーツ指導員の方を対象とする研修会(3月14日の午前2回・午後1回)	3回	108人
障害者スポーツ体験研修会	横浜市内の学校を中心に小中学生や教職員へ障害者スポーツの理解を深める体験研修会 <sup>1)</sup>	22回	3,559人
合 計 (前年度)		3,759人 (4,818人)	

1) 横浜ラポールのスポーツ施設で行う『受入型』と、ラポール職員が学校等に出向いて行う『出張型』があり、車いすバスケットボールが特に人気の高い種目です。

#### <第9全国障害者スポーツ大会の実績>

期 間：平成21年10月8～13日

派遣人数：選手51人・役員37人の合計88人

成 績：金=30個、銀=14個、銅=10個(大会新記録16)

金メダル獲得ランキング：全国第4位 獲得率：全国第5位

#### オ 地域支援

21年度の地域支援は、全体で258回(横浜市との協約目標値は220回)となりました。21年度の特徴は、鎌倉市や南足柄市等、市外からの指導依頼があったことですが、これはラポールの地域支援が広く認知されてきた結果と思われる。

全体の実施内容に大きな変化は無く、グラウンドゴルフやボッチャ、ラポールが独自に開発したオリジナルスポーツ等の教室開催や、自主活動グループへの支援が中心です。

また、地域支援の一つの核となっている中途障害者地域活動センターでは、近年高次脳機能障害者の参加が非常に多くなってきているため、リハ事業団の高次脳機能障害プロジェクトチームとの連携を強化しながら対応を進めました。

なお、21年度は開港150周年関連の各種イベントで、関連機関と積極的に連携したプログラムを実施しました。

#### <地域支援の実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
スポーツ教室	原則として地域の障害者を対象としたスポーツ教室	33回	519人
フォローアップ	ラポールのこれまでの取り組みにより、地域で自主的なスポーツ活動を開始したサークル等に対する支援	78回	1,402人
研修	地域のボランティア等を対象とした研修	3回	61人

その他	原則として地域の障害者を対象とした出張スポーツ指導や、地域間交流スポーツ大会等の開催	120回	2,277人
開港 150 周年事業関連	開港 150 周年記念事業と関連した各種プログラム	24回	709人
合 計 (前年度)		4,968人 (5,538人)	

### カ 新しい取り組み

スポーツ・レクリエーション教室の中に、卓球の「中級者」クラスを新設しました。前年度までは中級者と上級者を合わせて「中・上級者」としていましたが、競技力の向上を主な目的とする上級者と、必ずしも競技にはこだわらない中級者が共存する教室の限界が見えてきたため、「中級者」と「上級者」に分けて実施したものです。

結果的には「中級者」クラスへ多くの方が参加され、また「上級者」クラスは競技力向上に特化したプログラムを進めることが出来たので、大変良い試みだったといえます。そのため、22年度以降も継続的に「中級者」クラスを設ける予定です。

21年度の「旅リハ」は、予定していた「沖縄ツアー」を新型インフルエンザの流行などもあってやむを得なく中止としました。しかしながら、実際の旅行に行くまでの準備を含めた教室を試みとして開催し、今後の「旅リハ」充実に向けたプログラムの整備を図りました。

また、更なる利用者サービスの向上を検討するため、6月～7月にかけて、利用時間拡大に関するニーズ調査を実施しました。調査は聴き取りによるアンケートで、対象者はスポーツ施設の利用者及び介護者の計150人とし、「朝の開館時間の繰り上げ」「夜の閉館時間の繰り下げ」「日曜・祝日の閉館時間の繰り下げ」について調査した結果、「日曜・祝日の閉館時間の繰り下げ」に関するニーズが比較的高いことが分かりました（特に日曜日のプール団体利用）。

これを受け、日曜日のプール団体利用に限った利用時間延長（2時間程度）の試行的な実施を22年度に実施する予定です。

## 3 文化振興事業

「観る・聴く・楽しむ」ための場や、障害者の個々のニーズにあった創作への動機付けを図るための多様な文化的体験・能力開発の場を提供するほか、障害者の生活や文化に関する各種情報を提供することによって、障害者の社会活動・文化活動を支援しました。

### (1) 文化企画

障害者の文化活動発表の場である「横浜ラポール芸術市場」や、ラポールシアターでのコンサート等のほか、気軽に参加できる「ラポールファクトリー」を開催しました。

また、様々な文化教室・ワークショップのほか、陶芸作品の窯焼きを毎月実施しま



した。

#### ア 文化振興事業

障害者の文化活動発表の場である「横浜ラポール芸術市場」の開催にあたっては、作品・出演者を広く公募し、日頃の活動が発表できる場としました。

##### 「横浜ラポール芸術市場」

プログラム	内 容	回数	参加者数
ラポール美術展	絵画、写真、書、陶芸など約 430 点の力強い作品の展示会 同時に「さをり織り」や陶芸などのワークショップを体験コーナーとして「あなたも芸術家!？」を併催 (10月19日～25日)	1回	2,060人
いのち 生命のリズム	障害のある方が参加している太鼓のグループの合同発表会 (10月24日)	1回	221人
みんな de パソコン	障害者のパソコン利用支援グループ「ドリームナビゲーター横浜」による、パソコンを使っての缶バッジ作りや点字名刺作成 (10月31日)	1回	91人
ハッピー コーラス 2009	横浜ラポールの教室や、ワークショップから自主サークルとして活動しているグループによるコーラス発表会 (11月7日)	1回	126人
オータム コンサート	横浜ラポールのワークショップから自主サークルで活動しているグループのコーラスや、地域の障害者団体による器楽合奏の発表会 (11月8日)	1回	262人
野 点	横浜ラポールを利用しているグループ「お茶の会」による抹茶のサービス (11月15日)	1回	100人
ドリーマーズ ステージ	障害のある方が参加しているダンスのグループの合同発表会 (11月28日)	1回	155人
ハートフル コンサート	障害者によるピアノ演奏や器楽合奏等の合同発表会 (12月19日)	1回	138人
合 計 (前年度)			3,153人 (3,521人)

#### イ 交流事業

障害の有無に関わらず、多くの人々が共に楽しめるイベントを、いろいろな団体と共同企画し、幅広い文化領域にわたって開催しました。

また、1階ロビーで月1回程度開催しているラポールファクトリーを実施しました。

## (7) 自主・共催企画事業

プログラム	内 容	回数	参加者数
福祉レクリエーションフォーラム in 横浜ラポール	全国福祉レクリエーション・ネットワーク、日本レクリエーション協会と共催による、障害者の文化活動を支える方々を養成するフォーラムを開催（5月16日、17日）	1回	116人
竹田英雄トーク&ライブ 「難病だってあきらめない」	「くまぼう」という名でも知られる車椅子のミュージシャンによるトーク&ライブ（5月13日）	1回	94人
横浜交流音楽祭	アマチュアとプロ、さらに障害者の演奏家による市民手作りの音楽交流フェスティバル（5月30日）	1回	367人
ラポールの祭典「モバイルプラネタリウム」上映会	ラポールの祭典内で、簡易型プラネタリウムの投影（9月6日）	1回	198人
字幕付き映画上映会「WALL・E」	聴覚障害の方にも楽しんでいただけるよう、字幕サークルが日本語字幕を付けた映画会（9月27日）	1回	197人
ママさんコーラスワークショップ発表会	春から半年間実施したパパさんママさんコーラスワークショップの発表会（11月3日）	1回	103人
「障害者週間」国際親善交流特別演奏会	日本音楽文化交流協会と共催し、障害者を無料招待したクラシックコンサート（11月21日の昼/夜）	2回	484人
ゲームで遊ぼう	神奈川県アミューズメント施設事業者協会の協力によるゲーム機の無料開放（11月23日）	1回	574人
字幕付き映画上映会「おくりびと」	企業とタイアップし、日本語字幕の付いた作品の上映会（1月16日）	1回	133人
ラポールワンコインシアター「はこ/BOXES」	首都圏で活躍するろう者と健聴者が共同で作っている劇団「デフ・パペットシアター・ひとみ」による人形劇を低額な価格で提供（2月7日）	1回	114人

字幕付き映画上映会&撮影会 「超ウルトラ8兄弟」	聴覚障害の方にも楽しんでいただけるよう、字幕サークルが日本語字幕を付けた映画会と、企業より全面協力を受けた、ウルトラヒーローの撮影会	1回	291人
合 計 (前年度)		2,671人 (2,240人)	

(イ) ラポールファクトリー

1階ロビーを使って、毎月1回、第2土曜日の昼休みに音楽会などを開催しました。(4月、8月、9月、1月を除く)

プログラム	回数	参加者数
開港150周年を記念して…横浜を語る<手話通訳付き>	8回	43人
ロビーマジックショー		62人
ギター弾き語り		48人
歌うやまんば		68人
みんなで楽しもう!マジックと腹話術		51人
みんなで聴こう!クリスマスコンサート		70人
ようこそ紙芝居の世界へ!『日本と中国の民話』 <手話通訳付き>		55人
大正琴の音色を楽しもう!		61人

ウ 自己啓発事業

障害者の創作活動や余暇活動を支援するために、対象者やテーマ別に各種の教室・体験会を開催しました。また、陶芸等のボランティア研修を実施しました。

(ア) 教室等

プログラム	内 容	回数	参加者数
失語症の方のための情報交換会	リハセンターの言語聴覚士と連携した、ST訓練を経た失語症者に対し、テーマに沿った内容の座談会を支援するプログラム	12回	57人
初夏のお楽しみクッキング	生活体験を広げる場として、簡単で健康的なメニューに取り組んだ料理教室	3回	30人
ひとりひとりにできるごはん	新・料理塾「食のいろは」の協力を得て実施した障害児とその家族の支援プログラム	3回	30人

バリアフリー料理教室	食生活に興味を持ち、生活体験を広げる場として、簡単で健康的なメニューに取り組んだ料理教室	4回	49人
バリアフリークッキング in フォーラム	「男女共同参画センター横浜南」との共催で、主に男性が料理をする料理教室	3回	36人
サンデークッキング	障害のある20代、30代成人を対象に、余暇活動の一環として、家庭でも簡単にできるメニューに取り組んだ料理教室	3回	35人
アートサロン	片麻痺等の中途障害者を対象に、毎回季節感のあるテーマを設定、水彩画を中心とした教室	9回	143人
ものづくり広場	10～20歳代の知的障害者を対象にした、水彩画や工作教室	9回	100人
表現ワークショップ	和太鼓で遊ぶワークショップや、重度の身体障害者が対象の絵を中心としたアトリエ教室	8回	42人
コーラス・ワークショップ	障害のあるお子さんとその親たちのためのコーラス教室	5回	49人
夏休み親と子の工作教室	神奈川県土建一般労働組合横浜支部の協力による、親子で楽しめる木工やタイル細工教室	1回	56人
陶芸1日体験教室	片麻痺、聴覚障害、障害児等年齢や障害の特性に配慮した陶芸体験会	11回	150人
合 計 (前年度)		777人 (677人)	

(イ) 研修

プログラム	内 容	回数	参加者数
陶芸ボランティア研修	陶芸ボランティアのための釉かけの研修会	2回	26人
合 計 (前年度)		26人 (27人)	

(ウ) 陶芸窯焼成

プログラム	内 容	回数	参加者数
陶芸窯焼成個人	陶芸の個人利用者を対象に、有料による素焼きと本焼き	7回	352人
陶芸窯焼成大物	障害者を対象に、20cm以上の大物作品の焼成	4回	6人
合 計 (前年度)		358人・0団体 (367人・0団体)	

(2) おもちゃ図書館事業

おもちゃ図書館事業では、多様なおもちゃ遊びができる場の提供や障害児及び障害児関連団体等を対象にしたおもちゃ等の貸出を行いました。21年度のおもちゃ図書館利用者数は8,978人（前年度8,740人）でした。

また、主に春休み・夏休み期間のおもちゃ展や開港150周年記念事業など楽しく参加できる行事を実施し、延べ2,714人（前年度3,429人）が参加しました。

更に、館外での事業として「出張おもちゃ図書館」等を実施し、地域活動を支援しました。

ア おもちゃ・紙芝居・書籍類の貸出

内 訳	21年度貸出数	(前年度)
個人（障害児・保護者等）	2,987点 1,383人	(2,835点) (1,250人)
団体（療育機関・訓練会等）	2,269点 407団体	(2,429点) (372団体)

イ 交流会の実施

プログラム	内 容	回数	参加者数
おもちゃ図書館ボランティア・スタッフ交流会	地域のおもちゃ図書館の関係者による情報交換や課題についての話し合い (3月28日)	1回	13人

ウ 行事・イベント等の実施

プログラム	内 容	回数	参加者数
おもちゃ病院	個人や団体・横浜ラポールの壊れたおもちゃ計235点をボランティアが修理	12回	個人151人 団体26件
みんなのお楽しみ会	第2土曜日に実施している、お誕生月の児童のお祝いのための手遊びやマジック	9回	238人
わくわくボックス	「夏祭りで遊ぼう」「クリスマス」などをテーマに、ボランティアが中心になって開催する遊びの会 (7月4日、12月12日)	2回	105人

150周年おもちゃ展 「木のおもちゃランドで 遊ぼう！Ⅱ」	木のおもちゃの良さ、物づくりや環境 の大切さを広く知ってもらうため、特 別支援学校や福祉作業所などの作品の 展示会 (7月29日～8月2日)	1回	1,058人
帰ってきたさいころロボ ット	木のロボット工作教室(7月29日)	1回	17人
おもちゃドクターとおも ちゃをつくろう	昇り人形を作る工作教室(7月30日)	1回	27人
簡単動物工作	木のガラガラやロープウェイおもちゃ の工作教室(7月31日・8月1日)	2回	64人
道志村の間伐材でコース ターをつくろう	森林保護ボランティアグループによる 工作教室 (8月1日)	1回	54人
四季の工作	木の実などの身近な自然素材を利用し た工作教室 (11月22日)	1回	36人
キラリ、リラックス、 光のおもちゃ展 &横浜マイスターの ステンドグラス展	春休みに重い障害の子にも楽しんでも らうため、光をテーマにしたおもちゃ やきり絵行燈の展示と遊びのスペース (3月24日～28日) ステンドグラス作家の作品の展示 (3月20日～29日)	1回	457人
横浜マイスターの 「ガラス切りコラージュ」体験教室	ステンドグラス作家による、接着剤で ガラスを貼るオリジナル作品づくりの 教室(3月27日～28日)	3回	40人
ラポールの祭典 「おもちゃの広場」	神奈川県内のおもちゃ図書館ボラン ティアによる遊びや工作教室(9月6日)	1回	600人
合 計 (前年度)		2,837人 (3,381人)	

### (3) 情報ネットワーク

パソコン等の情報端末を通して、社会参加のための情報収集・提供やコミュニケーションの支援を行いました。また、情報バリアフリーを進めるための講座などを行いました。

ア 横浜ラポールホームページ運営

(ア) ホームページの運営

横浜ラポールのイベント情報等を中心とした、ホームページのコンテンツ制作及び運営を行いました。また、横浜ラポール内の全施設の予約状況及び広報誌(ラポラポ)が閲覧できるページについては、月2回の更新を実施しました。

ホームページアドレス <http://www.yokohama-rf.jp/shisetsu/rapport/>

(イ) 運営状況

年間総アクセス数： 987,725 件 (前年度：902,093 件)

イ 情報バリアフリー支援講座等

プログラム	内 容	回数	参加者数
パソコン相談会	パソコンボランティアの協力を得て、初心者を対象とした、パソコンの購入・使用方法等に関する相談会	4回	272人
パソコン体験コーナー	初心者を対象とした、インターネットの利用体験会	3回	10人
夏休み パソコンであそぼ	中高校生を対象とした、パソコンを使ったTシャツやマグネットシール作りなどの講習会	2回	12人
ジャーナリスト・ワークショップ	企業との共催で障害者スポーツなどのメディア発信に対する養成講習会	1回	16人
合 計 (前年度)			320人 (351人)

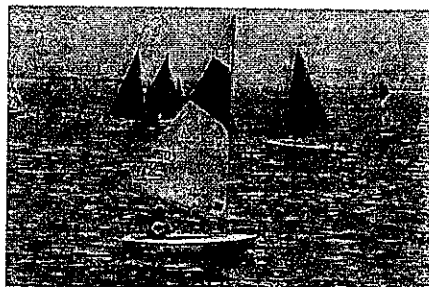
(4) 地域支援

地域における障害児・者の文化活動を推進するために、市内の施設などと共催事業等を実施しました。

プログラム	内 容	回数	参加者数
バリアフリークッキング in フォーラム (再掲)	「男女共同参画センター横浜南」との共催で、主に男性が料理をする料理教室	3回	36人
あおばおもちゃの広場	青葉区社会福祉協議会との共催で、地域の障害児と健常児の交流を目的に実施しているおもちゃの貸出や情報提供	67回	2,311人
移動おもちゃ図書館・出張展示	ヨコハマヒューマン&テクノランド 2009に協力し、ラポールのおもちゃや地域のおもちゃ図書館の活動を紹介	1回	—

出張パソコン相談会	ヨコハマヒューマン&テクノランド 2009 内において、パソコン相談会やパソコンに関する福祉機器の展示、缶バッジ作りを実施	1回	128人
合 計 (前年度)		2,475人 (2,345人)	

#### 4 開港 150 周年記念障害者スポーツ文化事業



(ヨット事業)



(横濱いろはかるた)

開港 150 周年記念障害者スポーツ文化事業として、様々な事業を企画・運営しました。この事業では、一過性のイベントで終わることなく、障害者のスポーツ・文化活動の継続的な発展に寄与することをコンセプトの 1 つとしていたので、いくつかの事業においては、22 年度以降も引き続きプログラムを展開します。

プログラム	内 容	回数	参加者数
ヨット事業	ベイサイドマリーナにおけるアクセスデ ィンギー乗艇体験会や世界大会への参加	12回	245人
ウォーキング事業	ヨッテクと連動して、パシフィコ横浜と山 下公園の間を歩くウォーキングイベント (7月25日)	1回	46人
知的障害者サッカー	日産スタジアムで行われた J リーグの前 座として、横浜 F・マリノスフトウーロが 前後半 15 分の試合を実施 (9月6日)	1回	37人
ダンス事業	ラポールシアター及びメインアリーナを 利用した、アダプテッドエアロのダンスイ ベント (10月4日)	1回	900人
グラウンドゴルフ事業	みなとみらいスポーツパークにおいて実 施したグラウンドゴルフ大会 (11月7日)	1回	96人



車椅子バスケットボール事業	肢体不自由児を対象とした車椅子バスケットボール体験教室の開催と、第9回High8車椅子バスケットボール大会への参加（エキシビジョンゲーム）	11回	197人
字幕付き演劇鑑賞会 劇団河童座 「からくり儀右衛門」	横浜・横須賀で活動中の老舗劇団に、開港150周年をもとに台本を制作してもらい、その演劇に字幕を付けて公演 (4月26日)	1回	131人
新垣勉 おしゃべりコンサート	日本全国で活躍中の全盲テノール歌手のコンサート（7月4日）	1回	299人
友野龍士 わくわく和太鼓コンサート	知的障害がありながらも可能性に挑み続ける和太鼓奏者のソロ&セッションライブ（7月11日）	2回	524人
バリアフリーミュージカルソングコンサート ワークショップ	コンサートの中で体験コーナーを実施するためのワークショップ (7月12日、26日)	2回	46人
バリアフリーミュージカルソングコンサート	生伴奏によるミュージカルの名曲を歌うコンサート (8月9日)	1回	282人
「横濱いろはかるた」	障害者を含む市民から読札を公募し、プロのきり絵画家が絵札を制作 <sup>1)</sup>	—	—
合 計（前年度）		2,934人（2,345人）	

1) 障害のある方たちがこの「横濱いろはかるた」の原画(きり絵)を通してさまざまな人と「集い・つくり・つながる」ための「きり絵の展示会」を市内8箇所で開催しました。

日 程	会 場
7月19日(日) ～21日(火)	横浜そごう9階「市民フロア」センタープラザ/シビルプラザ
7月24日(金) ・25日(土)	パシフィコ横浜 展示ホールB
8月13日(木) ～17日(月)	よこはま動物園ズーラシア
9月15日(火) ～20日(日)	横浜赤レンガ倉庫1号館
9月25日(金) ～29日(火)	緑のギャラリー
11月7日(土)	横浜市立荏子田小学校

11月18日(水) ～23日(月)	横浜ラポール
11月30日(月) ～12月3日(木)	泉区役所

## 5 聴覚障害者情報提供事業

聴覚障害者の社会参加を推進するため、手話・筆記通訳者の派遣、生活相談、社会参加情報等の提供を行いました。また、聴覚障害者団体等の活動を支援するため、視聴覚機器の貸出等を行いました。

21年度は、特に派遣窓口時間外救急時の手話通訳派遣システムについて関係機関・団体と協議を行いました。また、5月にスタートした裁判員制度への手話・筆記通訳者対応についても裁判所等と協議を行いました。

### (1) 手話・筆記通訳者派遣

聴覚障害者等が社会生活上必要とする場合に、手話通訳者及び筆記通訳者を派遣しました。研修については聴覚障害者団体と連携して実施しました。また、神奈川県、川崎市と広域派遣について連携しました。

#### ア 派遣事業

内 容	派遣・紹介人数 (前年度)	
手話通訳者	6,410人	(6,223人)
筆記通訳者	1,447人	(1,329人)
合 計	7,857人	(7,552人)

#### イ 手話通訳者研修会等の実施状況

内 容	回数	延べ参加人数
1年次研修	6回	65人
2年次研修	3回	21人
3年次研修	3回	47人
コース別研修 聞きとり	5回	242人
〃 読みとり	5回	291人
〃 対人援助	5回	193人

全体研修	3回	195人
合計 (前年度)	30回 (28回)	1,054人 (1,097人)

(2) 聴覚障害者相談

聴覚障害者等の生活上の諸問題に対して、個々の実情に即し適切な対応を図るため、聴覚障害者相談を実施しました。また、必要に応じて出張相談も実施しました。

- ・相談件数 435件（前年度425件）
- ・相談回数 937回（前年度849回）

(3) 映像・字幕等の製作及び貸出

聴覚障害者用に字幕・手話を挿入したビデオ及び手話通訳者用教材ビデオの自主制作を行いました。また、聴覚障害者を対象に字幕・手話入りのビデオ等の貸出を行いました。

ア 字幕入りビデオ等の制作

内 容	本 数
企画文化事業の字幕制作	3
(財)横浜市青少年育成協会協力	1
手話通訳者用教材ビデオ等	41
合 計（前年度）	45 (22)

イ 字幕入りビデオ等の貸出

- ・貸出件数 161件（前年度105件）

(4) 視聴覚機器の貸出

聴覚障害者団体等に視聴覚機器の貸出を行いました。

内 訳	在庫数	貸出件数
○ H P	4	58
スクリーン	7	98
磁気ループ	1	57
液晶プロジェクター	2	124
テープレコーダー	3	60
ビデオカメラ	2	35
○ H C	1	11
VHS ビデオデッキ	1	11
パソコン文字通訳用機器	2	173
パソコン文字通訳用機器個人用	2	73
合 計 (前年度)		700 (698)

(5) その他

ア 聴覚障害者団体等との協議

聴覚障害者団体、通訳者団体、関係機関と手話通訳者派遣事業・相談や聴覚障害者福祉制度等に関する意見交換を行いました。

・年間実施数 29回

イ 機関紙「ウェーブ」の発行

関係機関・団体及び通訳者に対して聴覚障害者の各種情報を紹介するために発行しました。

・発行日：偶数月の15日

・部数：600部/回（A4版4頁）

6 広報事業

横浜ラポールの利用を促進し、障害者の社会参加及び障害者とその他の市民相互の交流を図るため、次のとおり実施しました。

(1) 横浜ラポール広報誌・催し物案内の発行

月間催し物案内「ラポラボ」を発行し、市・区役所、障害児・者施設をはじめ、関係機関約500か所で配布しました。

(2) 事業概要（年報）の発行

(3) 視察・見学者への施設案内

件数：39件（前年度46件） 人数：788人（前年度658人）

(4) インターネットによる広報

ホームページを作成し、広く施設情報を紹介しました。（再掲）

## 7 その他

各種研修・訓練等の実施により、施設の円滑な運営や安全管理を進めるとともに、職員の業務に対する意識の向上に努めました。

### (1) 利用者満足度調査

施設運営上の課題等を把握し、利用者へのサービス向上を図るため、利用者満足度調査を昨年度に引き続き実施しました。

- ア 実施方法 アンケート方式（無記名）  
イ 実施期間 平成22年2月18日～3月14日  
ウ 回収数 248通  
エ 結果 (ア) ラポール職員の対応について  
満足 75.0%、ふつう 18.5%、不満 3.2%  
(イ) ラポール内の清掃について  
満足 77.4%、ふつう 16.1%、不満 3.4%  
(ウ) ラポール内の空調について  
満足 59.7%、ふつう 27.4%、不満 9.3%  
(エ) ラポール主催のスポーツ事業に参加したことがありますか  
はい 35.5%、いいえ 54.8%  
(オ) 「はい」の場合、いかがでしたか  
満足 75.0%、ふつう 17.0%、不満 4.4%  
(カ) ラポール主催の文化事業に参加したことがありますか  
はい 31.9%、いいえ 57.3%  
(キ) 「はい」の場合、いかがでしたか  
満足 78.2%、ふつう 15.2%、不満 3.0%  
※ (ア)～(キ)において、無回答は含んでいません。

### (2) 職員研修

職員を対象に研修を実施しました。

研修名	回数	参加者数
個人情報取扱い研修	5回	70人
救急救命研修会 (7月21日午前・午後)	2回	51人
人権啓発研修 (11月11日、12月9日)	2回	73人
クレーム対応研修 (12月28日)	1回	53人
セクシャルハラスメント研修 (3月3日、3月4日)	2回	45人

通報訓練及	16回	89人
救助訓練	13回	77人

(3) 防災対策

ア 自衛消防組織の編成及び任務

自衛消防隊長 副隊長 (館長) — (副館長)	通報連絡班長：消防機関への連絡、館内放送 (管理・文化事業課長) 初期消火班長：消火器・屋内消火栓による初期消火活動 (スポーツ事業課長：振興担当) 避難誘導①班長：館内利用者の避難誘導 (スポーツ事業課長：指導担当) 避難誘導②班長：館内利用者の避難誘導 (スポーツ事業課長：人材担当) 避難誘導③班長：館内利用者の避難誘導 (聴覚障害支援課長)
----------------------------	---

イ 消防訓練の実施状況

実施日	内容
5月29日	横浜ラポールの火災発生を想定したリハビリテーションセンター・横浜市総合保健医療センター・横浜ラポール合同の消防訓練
11月27日	横浜市総合保健医療センターの地震・火災発生を想定したリハビリテーションセンター・横浜市総合保健医療センター・横浜ラポール合同の防災訓練

(4) 運営委員会の開催

横浜ラポールの運営に障害者等利用者の意見を反映するため、関係者で構成する運営委員会を開催しました。

開催状況 年2回(10月28日、3月30日)

(5) 施設の利用状況

横浜ラポールでは、障害者を優先的に施設の貸出を行いました。

ア 利用区分による利用状況

	利用者数		前年度
個人利用数	182,853人	(100.0%)	179,279人
障害者	130,185人	(71.2%)	127,140人
介護人等	32,966人	(18.0%)	31,799人
一般	19,702人	(10.8%)	20,340人
団体利用数	239,313人 (7,840団体)	(100.0%)	261,320人 (7,128団体)
障害者	84,509人	(35.3%)	89,514人
介護人等	38,172人	(16.0%)	37,740人
一般	116,632人	(48.7%)	134,066人
利用者数 合計	422,166人(1日平均1223.7人)		440,599人

イ 障害別による利用状況 (個人利用の内訳)

内 訳	利用者数		前年度
肢体不自由	85,739人	(65.9%)	84,677人
知的障害	23,151人	(17.8%)	22,665人
精神障害	5,950人	(4.6%)	5,360人
視覚障害	3,727人	(2.9%)	4,030人
内部機能障害	4,586人	(3.5%)	3,727人
重複障害	4,019人	(3.1%)	3,688人
聴覚障害	3,013人	(2.2%)	2,993人
合 計	130,185人	(100.0%)	127,140人

ウ 施設別区分による利用状況

	利用者数	前年度
スポーツ施設	261,431人 (100.0%)	254,319人
プール	77,721人 (29.7%)	73,614人
メインアリーナ	56,072人 (21.4%)	58,450人
フィットネスルーム	60,238人 (23.0%)	57,954人
サブアリーナ	28,083人 (10.7%)	26,780人
屋外グラウンド	13,131人 (5.0%)	13,768人
ボウリングルーム	10,873人 (4.2%)	11,380人
地下グラウンド	10,633人 (4.0%)	7,809人
テニスコート	4,680人 (2.0%)	4,564人
文化施設	160,870人 (100.0%)	186,304人
ラポールシアター	43,589人 (27.0%)	48,551人
大会議室	28,380人 (17.7%)	38,035人
ラポールボックス	28,506人 (17.7%)	33,283人
ラポール座	18,445人 (11.5%)	20,129人
和室	15,727人 (9.8%)	18,152人
創作工房	9,470人 (5.9%)	10,029人
小会議室	7,479人 (4.6%)	9,256人
おもちゃ図書館	8,978人 (5.6%)	8,740人
聴覚障害者情報提供施設 <sup>1)</sup>	161人 (0.1%)	105人
応接室	135人 (0.1%)	24人

1) 聴覚障害者用字幕付きビデオ貸し出し人数